

11月21日(土) ～出発～

夕方の便で関空より出発。2時間半前の集合は早すぎると思っていたのですが、約20人での集団行動、また携帯電話の紛失など不測の事態もあり、適当であったと考えられます。台北の桃園空港到着後は、台湾留学経験者や何度も訪れている学生の主導で移動し台湾師範大学に到着、軽いミーティングの後解散しました。

11月22日(日) ～東呉大学の学生との交流・桃園観光～

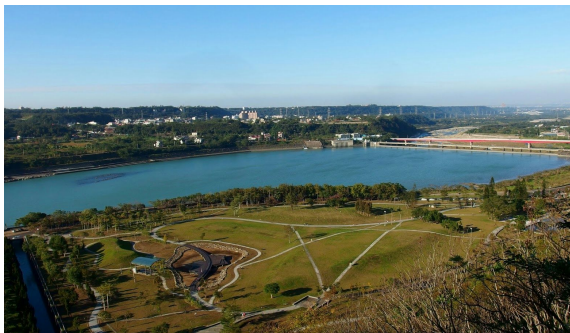


《鼎泰豊》

朝一で鼎泰豊という台湾でとても有名な小籠包店に行きました。台湾の物価からするとかなり高級ということもあり、どの料理もハズレがなく美味しくいただきました。

《兩蔣文化園區》

朝食後東呉大学の学生と合流し、バスで兩蔣文化園區に向かいました。先に大阪大学の学生がバスの両方の窓側に座り、後からきた東呉大学の学生とペアになるようにして交流を深めました。蒋介石の銅像がたくさんあり、非常に興味深い場所でした。普通の観光ではなかなか訪れることのない場所で面白かったです。



《石門ダム》

午後からは石門ダムに行きました。私たちはバスを降りてダムが一望できる高台まで歩きました。なかなかの急勾配でしたが、天気が良かったこともあり川からダムにかけての景色は素晴らしかったです。ズボンのチャックが開いていることを日本では「社会の窓が空いている」と表現されますが、台湾では「石門水庫沒關」と言うそうです。

《大溪老街》

夕方からは大溪老街を散策しました。建物外壁の見事なレリーフ彫刻は一軒一軒デザインが異なり、見ていて飽きません。また夜になると電灯がオレンジ色のレンガを照らし、老街全体からレトロな雰囲気が醸し出されていました。短い時間でしたが、各班食べ歩きを楽しみました。特に花生糖が有名らしく、長い行列に並ぶ学生も見受けられました。



11月23日(月) ～総統府見学・台北大学訪問～



《総統府》

この日は朝から総統府の見学をしました。古亭駅からメトロに乗り台大醫院駅で降り歩くこと5分、総統府の美しい外観が見えてきました。長い列に並んだ後パスポートと鞆の中身のチェックを受け、ガイドさんに案内され中に入ることができました。ガイドさんは中国語で話し林先生が随時日本語に翻訳してくれました。ガイドさんの詳しい説明を聞きながら各国から総統への贈り物、日本統治時代の写真や文献、メイドイン台湾の製造品などの展示物や総統府の綺麗な内観をじっくり見学しました。総統府の建物の

造りや歴史、日本統治時代の状況そして台湾の政治、海外諸国との関係、台湾の技術など多くのことについて学ぶことができました。総統府を外から見たことは何度もありましたが、内から歴史に触れながら展示物や建物を見れたことはとても貴重な体験でした。

《台北大学》

午後は台北大学を訪問、法学部の学生との交流です。昼食をとりながらの自己紹介では、しだいに緊張も解けていきました。そして4チームに分かれ伝言ゲームやクイズなどを行いました。台北大学側の企画、司会だったのですが、彼らの進行ぶりはテレビ番組のようでした。テンションの高いクイズ番組のような雰囲気です。両校とも大変盛り上がっていました。数ヶ月もかけて準備されたおもてなしはとても感動しました。

その後は校内の見学で、法学部の課外活動を見せていただきました。また模擬法廷に入るのも貴重な体験でした。もう少し時間があれば裁判が起きていたでしょう。続いて図書館の見学です。この図書館は比較的新しい現代建築の建物で、中には膨大な蔵書が収められているだけでなく、美術展にもスペースを割いています。





《三峡老街》

夜は台北大学の学生と三峡老街を散策しました。日本の大正時代に作られたというこの老街の建物には、中、欧、日の多様な形式が融けあっていてきれいです。日没後は灯りもあってさらに美しくなります。ここでも台北大学の学生に老街の説明などをしていただき、大変勉強になりました。



11月24日(火) ～台湾師範大学訪問・霧社事件講義～



《台湾師範大学》

この日は台湾師範大学台湾語学科の許慧如先生の授業を聴講させていただきました。授業のテーマは「台湾語あるいは台湾華語における借用語」でした。台湾語は日本語、華語、原住民語、スペイン語、オランダ語などに起源をもつものが多く、その中でも日本語に由来を持つ言葉を主に紹介してくださいました。(水道水、電球、うどんなど)現在も多くの人がある起源を知らないままに台湾語使っていることが多いそうです。そしてそれは文化接触の結果であるといいます。中国語のなかった戦前は日本語の借用語が

多かったが、その後は華語の影響を受けているものが増えたようです。授業が終わり、15分ほど台湾語学科の学生との交流の時間をいただきました。席の近い各五人ずつほどのグループでひと時の談笑を楽しみました。

《埔里》

その後各自で昼食。昼食後、台北駅から中長距離バスに3時間程乗り、南投市の埔里に到着しました。宿泊先である牛耳芸術休暇村にて霧社事件研究の第一人者である鄧相揚先生や、霧社事件で亡くなった原住民の遺族の方と夕食をいただきました。

夕食後に1～2時間ほど時間を設け、日本統治時代に起こった台湾原住民の抗日暴動事件である霧社事件に関する貴重なお話を聞くことができました。霧社セデック族はGayaという民族が生きるために守るべき明文化されていない規範や法則を持っていて、鄧先生によれば、霧社事件はGayaという文化の衝突の観点から解釈することで、謎の多い霧社事件の全てを理解できるといいます。遺族の方は日本統治の影響で日本語を流暢に話すことができ、中国語と日本語を交えながら霧社事件について当事者の立場でお話をしてくださいました。私たちは、霧社事件について、研修前に事前調査を進めて今回の研修に臨みました。そこで得た知識と実際の現地の方々のお話を照らし合わせ、霧社事件について更に理解を深める機会となりました。



11月25日(水曜日) ～霧社事件の歴史に触れる～

この日私たちは2011年に公開された映画「セデック・バレ」の舞台となった霧社事件についてより理解を深めるため、霧社へ訪問しました。霧社事件とは、1930年10月27日、台湾の霧社(現在の南投県仁愛郷)で発生した抗日暴動事件のことを指します。霧社事件は日本統治時代最大の抗日暴動事件であり、台湾の歴史を学ぶ日本人の私たちにとって理解しておかなければならない重要歴史の一つです。



《霧社事件発生地／モーナ・ルダオのお墓》

まず初めに、私たちは実際に霧社事件が発生した「霧社公学校」を訪れました。事件発生時、この学校では運動会が開催されており、日本人を含め多くの人が集まっていたそうです。現在は学校の跡形もないため、ここで大量の人が殺されたとは想像もつきませんでした。その後、現地の人に引率してもらい、霧社事件を起こしたモーナ・ルダオのお墓へと向かいました。そこで、モーナ・ルダオの遺体は何十年もの間、台湾大学の考古人類学科で保管されていたという説明を受けました。1973年によくモーナ・ルダオの故郷である霧社に返還され、この地でお墓が建てられたそうです。お墓の前には、モーナ・ルダオ実物大の銅像も建てられており、彼の頭目としての威厳さを肌で感じました。

《川中島》

霧社からバスで移動し川中島へ向かいました。川中島は霧社事件で生き残ったセデック族の方々が強制移住させられた場所です。到着すると、マンションなどは無く、広々とした家々が並ぶ日本の田舎のような風景が広がっていました。前日にお話を伺ったモーナ・ルダオの子孫の女性のお家にお邪魔させていただくと、お菓子と飲み物でもてなしてくださいました。レモン水と一緒に出していただいた梅のお茶は、中国大陆に留学していた頃によく飲んでいて酸梅湯を思い出す味でした。お部屋を見学させていただくと、10畳程度の畳部屋の奥に近代的なシャワールームが広がっており、台湾の山村で目にした和洋折衷の空間に不思議な感覚を覚えました。しばらくすると徐々に子供たちが集まり、一緒に遊ぶことになりました。私たちが持参したフリスビーを投げ合ったり、カメラに興味を示したりと、子供の遊ぶ様子はどこに行っても同じだと安心感を覚えました。肩車をして走り回ったり、手をつないでぐるぐる回ったりと、しばらく研修に来ていることを忘れて遊びました。セデック族のおばあさんが子供たちを整列させ、原住民の歌を歌い始



めると、子供たちは普段から練習している振付を踊り始めました。一度通して見せてもらった後、私たちも一緒に並び子供たちの振り付けを真似して踊りました。振りを間違えては子供たちに怒られることもありましたが、ここでしかできない体験ができました。



《霧社事件餘生記念館》

川中島地区の小学生たちと交流した後、街中を案内していただきました。随所に日本統治時代の名残が残っており、住民のセデック族の方たちは悲しい記憶と共に暮らしているのだと実感しました。その途中で、霧社事件餘生記念館を訪問しました。この施設には、台湾原住民・セデック族の霧社地区で起こった抗日戦争である「霧社事件」に関する資料が収蔵されており、戦時中の様子や生き残ったセデック族の人々が川中島へ移住した後の集落の変遷

などを現代に語り継いでいました。2011年に台湾映画「セデック・バレ」が公開されると、事件と共にこの記念館にも注目が集まり、多くの観光客が訪れるようになりました。映画「セデック・バレ」で使用された衣装や道具なども展示されており、川中島地区の方にガイドしてもらいながら当時の人々の生活を学びました。台湾研修前に行われたミーティングで全員が霧社事件の知識を共有した上での訪問でしたが、今回の記念館訪問はその知識を最大化させる貴重な時間となりました。記念館を後にし、再びお家に戻ると、先ほどのセデック族のおばあさんが霧社から川中島に移住させられた際の歌を歌ってくださいました。歌詞の大部分は原住民の言葉であったため分かりませんでしたが、歌詞の中に出てきた地名に日本語でつけられたものがあり、日本統治時代の名残を再度感じました。

11月26日(木曜日) ～南投・台中観光～



《日月潭・文武廟》

26日は、台湾研修で唯一、観光中心の日で、全員で台湾中部に位置する南投県・台中市を観光しました。26日の天気は少し曇っていましたが、日月潭の美しい景色を見ることができました。特に文武廟から見下ろす日月潭の景色は霧がかかっていて綺麗でした。台湾ならではの細やかな装飾や大きな構造の霊廟を見て、礼拝しました。

《集集駅》

その後、集集駅までバスで行き、班ごとに昼食をとりました。集集駅は、日本統治時代に水力発電所の建設資材輸送のために敷設された、ヒノキ造りの木造駅舎で、とてもかわいらしい駅です。集集駅周辺ではバナナが有名で、バナナケーキ、バナナジュースといった、多くのバナナ関連の商品が売られていました。日本とは異なり、バナナ自体の種類が豊富で、私たちが知っている「香蕉」以外にも、大きさによって様々な名称があり、とても面白いと感じました。



《溪頭自然教育園區》

集集駅からバスで溪頭自然教育園區まで移動しました。日本統治時代は、一部台北帝国大学農学部の演習林だったそうです。入口からハイキングコースが続き、ひたすら歩きました。2キロほど歩くと、「空中走廊」と呼ばれる山の頂上付近にある渡り廊下までたどり着きました。「空中走廊」の非常に高い位置より密林を見下ろす事ができ、今までにない体験ができました。

《一中街夜市》

夜は一中街夜市にて自由行動をとりました。私たちは、夜市で軽く食べたあと、夜市のはずれにある「一中豊仁氷」というかき氷屋さんに行きました。かき氷は今まで食べたことのない味で、小豆とアイスと一緒に食べると絶品でした。そのお店はかなり昔から営業しており、このかき氷は先生の思い出の味らしく、変わらずおいしいとおっしゃっていました。





その後、「宮原眼科」と呼ばれるアイスクリーム屋まで移動しました。「宮原眼科」の内装はとても綺麗で、日本語で私たちが喋っているのを耳にした日本に興味のある店員さんが、「宮原眼科」の歴史について詳しく教えてくれました。以前この場所では眼科が開業されており、元々建物に使用されていた木材などを再利用していてとても興味深いと思いました。帰り際、出口まで見送ってくれ、出口で「下を見て」と言われて見ると、蟻が10匹(=「ありがとう」の意味)が描かれており、なんだか暖かい気持ちになりました。

11月27日(金) ～国立台中第二高級中学～

《台中二中訪問》

この日は台中二中を訪問しました。台中二中は1922年に創立され、日本統治時代は日本人が通う学校でしたが(台湾人は台中一中)戦後は台湾人の学校となりました。台中市内では台中一中に次ぐ進学校で優秀な卒業生を輩出しています。



《授業見学》

まずは会議室にて台中二中の校長先生、林先生、学生代表による挨拶が行われ、学校についての説明を受けました。その後校史室を案内してもらい、台中二中の歴史や生徒たちの活動について学びました。そして、班ごとに分かれそれぞれ国語・英語・数学・公民の授業に参加しました。どの教室でも生徒たちは真剣かつ活発に授業に参加しており、その積極的な授業態度に大阪大学の学生は皆とても感心していました。

《クラブ体験》

午後は昼食を兼ねて、台中二中の先生方と大阪大学の学生による座談会が行われ、日本と台湾の教育や、学生の考え方といったテーマで意見交換が行われました。その後は、学生がそれぞれ興味のあるクラブ活動に参加させてもらいました。台中二中では1学期に6回しかクラブ活動の時間がないのですが、その貴重な時間を生徒たちはとても楽しんでいるように感じました。日本人学生と台中二中の生徒で試合が行われる等、クラブ活動を通して学生間の交流を深めました。



《家庭訪問》

放課後は大阪大学の学生が2、3人ずつに分かれてそれぞれ台中二中の学生の家庭を訪問しました。美味しい料理をたくさん用意していただいたり、台中市内を車で案内してもらったりと各自楽しい時間を過ごしました。中には大量のお土産を両手に抱えて帰ってきた学生もあり、訪問先の生徒と家族の心のこもったおもてなしに一同感激させられました。

11月28日(土) ～研究発表会・打ち上げ～

午前11時前に全員、富信大飯店をチェックアウトし、高速鉄道台中駅へ。台中駅から1時間弱高鐵に揺られ台北に到着。各々ホテルに移動し、つかの間の休憩。14時45分西門駅5番出口に集合し、研究発表会の会場、とんかつ屋「和家」へ。15時過ぎより東呉大学の学生など台湾の学生13名を迎え大阪大学の学生がそれぞれの研究成果を発表しました。



以下各学生の研究テーマ

林克哉「台湾ラグビー界の現状、魅力」

酒井菜摘「台湾のアイドル文化」

康田成絵「日本文化が日本語を学ぶ台湾人の学生に与える影響」

中山芽英「台湾の学生の政治に対する考え方」

沼田奈々「日台の制服比較」

金本幹矢「台湾で見かける簡体字」

山縣瑤香「台湾と周辺諸国にまつわる言語と文化の共通点」

村上愛奈「台湾の踊り」

風間幸樹「台湾宗教の実態」

満仲「台湾における外来語」

見通将司「台湾における日本自動車メーカーの比較」

林正和「台湾原住民と日本統治」

藤江良多「台湾と日本の交通政策の比較」

赤木賢吾「台湾と日本の道路標識比較」

福本博也「台湾啤酒の歴史」

細野周平「台湾の最も代表的な動物」

大西亮平「台湾におけるEC」

各学生が発表を終え、林初梅先生、東呉大学の長田正民先生、そして田上智宜先生からそれぞれお言葉をいただきました。

《打ち上げ》

研究発表会が終わり善導寺駅近くにある熱炒(台湾式酒場)に移動。

東呉大学の学生も10名ほど参加していただき、今研修の打ち上げが開始された。台湾ビールで乾杯。終始賑やかな雰囲気の中、学生、先生方全員で今回の研修の成果や疲れを労いあいました。



11月29日(日)・30日(月) ～自由行動～

最後の2日間は自由行動でした。台北でショッピング&グルメ巡り、留学中の友達と久々の再会、卒業論文のための調査など、それぞれ思い思いの時間を過ごしました。中には台湾映画『那些年我們一起追過的女孩』でも有名な十分まで足を延ばした学生もあり、願い事を書いたランタンを空に飛ばす「天燈上げ」に挑戦しました。あいにくの雨で打ちあがってすぐに地面に落ちてしまうランタンも散見されましたが、学生たちの願いを書いたランタンは幸い空高く飛んでいきました。



12月1日(火) ～帰国～

台湾桃園空港から関西空港へ、全員無事帰国しました。

